

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分
 【発行日】平成 17 年 7 月 28 日 (2005.7.28)

【公開番号】特開 2004-83397 (P2004-83397A)
 【公開日】平成 16 年 3 月 18 日 (2004.3.18)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-011
 【出願番号】特願 2003-182524 (P2003-182524)
 【国際特許分類第 7 版】

C 0 1 G	30/00	
B 0 5 D	5/00	
B 0 5 D	7/24	
// C 0 3 C	17/32	
【F I】		
C 0 1 G	30/00	
B 0 5 D	5/00	K
B 0 5 D	7/24	3 0 3 C
C 0 3 C	17/32	A

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 12 月 22 日 (2004.12.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 5】

また、導電性を制御する他の方法として、日射遮蔽体形成用の分散液中へ無機バインダーまたは樹脂バインダーを加え、この含有量を加減する方法を採ることも可能である。この無機バインダーまたは樹脂バインダーを加える方法は、分散液の硬化後に、基板上で高密度に堆積して形成されている A T O 微粒子の基材への密着性を向上させ、さらに膜の硬度を向上させる効果もあり好ましい。他方、分散液中に樹脂バインダーまたは無機バインダーを加えない場合に得られる膜は、基材上に上記 A T O 微粒子のみが堆積した膜構造になる。この A T O 微粒子のみが堆積した膜は、勿論このままでも日射遮蔽効果を示す。そしてバインダーが加えられた場合も加えられない場合も、この日射遮蔽体は、高い可視光透過率と、低い日射透過率を有しながら、ヘイズ値が低いという優れた光学特性を有する。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 1】

5) 光学特性の測定

得られた日射遮蔽体試料 A ~ O の光学特性は、日立製作所 (株) 製の分光光度計 U - 4 0 0 0 を用いて測定した。また、ヘイズ値は村上色彩技術研究所 (株) 製 H R - 2 0 0 を用いて測定した。

膜評価においては、膜厚の異なる 3 種の日射遮蔽体 A ~ O の光学特性を測定して 3 点プロットとし、この 3 点プロットより可視光透過率を 7 5 % に規格化したときの日射透過率およびヘイズ値を算出して求めた。

得られた日射遮蔽体試料 A ~ O の光学特性の測定結果を図 1 に示す。

図 1 に示すように、日射透過率が 60 % 未満で、かつヘイズ値が 1 % 未満の優れた光学特性を示した日射遮蔽体は、試料 A ~ G および K ~ O であった。中でも試料 C ~ E および L、M は日射透過率が 56.5 % 未満で、かつヘイズ値が 0.8 % 以下というさらに優れた光学特性を示した。